

インフルエンザの流行に備えましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 71	71	百日咳	↗ 2	0
RSウイルス感染症	↗ 103	76	ヘルパンギーナ	↘ 23	28
咽頭結膜熱	↗ 30	16	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↘ 70	82
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↗ 97	86	急性出血性結膜炎	↗ 1	0
感染性胃腸炎	↗ 708	579	流行性角結膜炎 (はやり目)	↘ 21	28
水痘	↗ 45	31	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↘ 75	78	無菌性髄膜炎	↘ 1	2
伝染性紅斑 (りんご病)	↗ 2	1	マイコプラズマ肺炎	↗ 10	8
突発性発疹	↘ 26	34	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎 : 菊池、八代、山鹿、有明

手足口病 : 菊池

流行性耳下腺炎 : 八代

流行性角結膜炎 : 有明

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	27	12	9	28	179	7	30	0	7	0	3	21	1	15	0	1	8	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	47	2	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	33	9	12	15	139	7	24	1	7	1	6	8	0	0	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	3	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	1	18	1	0	105	8	3	0	1	1	1	21	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	35	0	0	9	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
8 人吉保健所	0	16	0	12	34	0	8	0	1	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0
9 有明保健所	3	5	4	16	108	6	2	0	4	0	3	3	0	6	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	1	6	1	24	33	13	4	1	0	0	3	8	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	1	2	3	2	25	2	2	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
計	71	103	30	97	708	45	75	2	26	2	23	70	1	21	0	1	10	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	71	0	1	5	2	2	7	4	5	2	1	2	9	4	2	4	5	10	2	0	4
小児科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	103	17	18	48	11	5	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	30	0	0	10	7	6	1	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	97	0	0	1	1	5	13	11	15	11	10	12	16	1	1						
感染性胃腸炎	708	2	33	93	73	80	74	55	48	42	30	19	85	16	58						
水痘	45	0	1	4	5	3	9	12	6	0	2	2	1	0	0						
手足口病	75	2	3	30	11	9	4	14	1	0	0	0	1	0	0						
伝染性紅斑	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
突発性発疹	26	1	9	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0						
ヘルパンギーナ	23	1	2	10	4	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	70	0	0	2	4	12	13	8	11	6	2	1	10	0	1						
眼科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	21	0	0	2	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	2	7	1	0	4	0	0
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	10	0	3	5	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

インフルエンザの流行に備えましょう

6週連続でインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告がありました。県内の定点医療機関からの患者報告数は71件、第48週と比べ報告数は横ばいでしたが、県内の流行入りも間近と思われます。なお、全国平均では流行入りしていますので、予防対策をしっかりと行い、流行に備えるようにしましょう。

引き続き感染性胃腸炎に注意しましょう

今週の感染性胃腸炎の報告数は708件で、前週よりも報告数が増えています。また、菊池、八代、山鹿、有明で警報レベルです。冬場に流行する感染性胃腸炎の原因の多くは、ウイルスによるものです。特にノロウイルスは感染力が強く、少量でも発症するのが特徴です。通常、これらの症状が1~2日間続いた後に治癒しますが、小さなお子様やご年輩の方などでは重症化することがありますので、特に注意が必要です。

インフルエンザ 予防対策

- 流行前の予防接種**
予防接種を受けてから効果がでるまで2週間程度かかるため、早めに接種を行いましょう。
- 飛沫感染対策としての咳エチケット**
◇咳やくしゃみを他の人に向けて発しない
◇咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをする
◇手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗う
- 外出後の手洗い**
20秒以上時間をかけた丁寧な手洗いを心がけましょう。